もも栽培情報 第6号

令和5年8月28日JAアルプス富山県富山農林振興センター

1 概況

収穫もほぼ終了し、これからは来年産に向けての作業が始まります。

現在、一部でせん孔細菌病の被害葉 (写真1) が見られます。病 原菌の越冬密度を下げるため、管理を徹底して下さい。



写真1 せん孔細菌病の被害葉

2 病害虫防除

(散布量:4000/10a)

口	時期	対象病害虫(※1)	散布薬剤名	希釈倍率	1000当たり 必要薬剤量
12	8月下旬(収穫後)	シンクイムシ類、 モモハモグリガ	サムコルフロアブル10	5,000倍	20 mℓ
		展着剤	マイリノー	20,000倍	5 mℓ
13	9月中旬	せん孔細菌病	ICボルドー412(※2)	50倍	2 0
14	9月下旬	せん孔細菌病	ICボルドー412(※ 2)	50倍	2 0
15	10月上旬	せん孔細菌病	ICボルドー412(※ 2)	50倍	2 0

- ※1 ハダニ類の発生が見られる場合は、マイトコーネフロアブル1,500倍(使用回数1回、収穫前日まで)を散布する。
- ※2 <u>ICボルドー412の予防効果の持続期間は15日間程度</u>なので、散布間隔が空きすぎないよう注意する。 せん孔細菌病は風雨で感染が拡大するので、台風等の強風が予想される場合は、事前にICボルドー412 を散布し、感染拡大を防止する。

3 施肥管理

収穫終了後に、速効性窒素単肥(硫安等)を年間窒素施用量の20%程度使用する。 (5年生以上樹の施肥例)

任 报	施肥時期	肥料	施肥量		成分量		
種類			(10a 当たり)	N	Р	K	
礼肥	9月上旬頃	硫安	15kg	3.15kg			

※3~4年生樹の施肥量はこの半分程度が目安

4 秋季せん定(図1)

- ・収穫終了後は速やかに樹形を乱す強勢な枝を中心に切除し、同時に樹冠内部に光と薬剤が到達するように直上した枝も切除する。
- ・過度なせん定は樹勢の低下を招くため、せん定量は最大でも全せん定量(秋冬季のせん定量)の30%までとし、弱樹勢樹では実施しない。
- ・切除の際は、翌年以降の結果枝確保のため、基部付近の芽や副梢を残す。
- ・縮間伐予定樹では、永久樹の樹形確立の妨げとなるような枝等を優先して切除する。

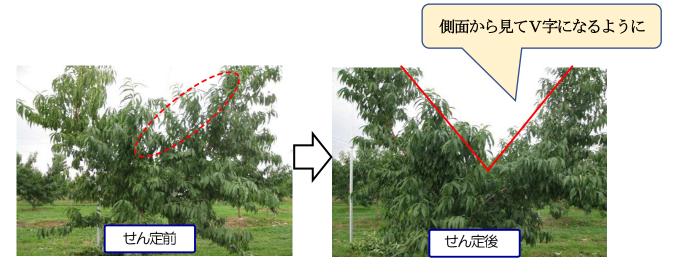


図1 秋季せん定の例

- ★ 農薬を散布するときは、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。
- ★ 熱中症予防のため、こまめに水分を補給しましょう。